

司式 熊田雄二牧師

奏楽 豊島慶子姉妹

前 奏

開 会 招 詞

\* 賛 美 歌 2:1 主のみいつとみ栄えとを 声の限り讃えて  
またき愛と低き心 御座にそなえひれ伏す アーメン

\* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書2 罪の告白①

かみ 神よ、わたしを憐れんでください。おんいつく 御慈しみをもって。ふか おんあわ 深い御憐れみをもって、そむ つみ 背きの罪をぬぐい  
さ 去ってください。わたしのとが 咎をことごとくあら つみ きよ 洗い、罪から清めてください。わたしはとが 咎のうちにう お  
さ され、はは 母がわたしをみ 身ごもったときも、わたしはつみ 罪のうちにあったのです。わたしをあら 洗ってください。  
ゆき しろ 雪よりも白くなるように。かみ 神よ、わたしのうち きよ 清い心を創造し、あたらし たし 新しく確かなれい 霊をさずけてくださ  
い。すく よろこ 救いの喜びを再びわたしにあじ 味わわせ、じゆう れい 自由の霊によってささ 支えてください。しゅ 主よ、わたしのくちびる ひら  
てください。このくち 口は、あなたのさんび うた 賛美を歌います。

しゅ 主イエス・キリストの御名によって。アーメン。 (詩編51)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

1. あなたは、わたしのほかに、なにもの かみ 何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それにつか 仕えてはならない。
3. あなたは、あなたのかみ しゅ な 神、主の名を、みだりにとな 唱えてはならない。しゅ 主は、  
み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. あんそくにち 安息日をおぼえて、これをせい 聖とせよ。
5. あなたのちち はは うやま 父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたはかんいん 姦淫してはならない。
8. あなたはぬす 盗んではならない。
9. あなたはりんじん 隣人についてぎしょう 偽証してはならない。
10. あなたはりんじん いえ 隣人の家をむさぼってはならない。りんじん つま 隣人の妻、またすべてりんじん  
のものをむさぼってはならない。 (出エジプト20、申命記5)

\* 賛 美 歌 2:2 委ねまつる我が重荷を 主は代わりて負いたもう  
悩み多き世の旅路も 主のいませばやすけし アーメン

共同の祈禱 祈禱書6 ニケア信条

われ ゆいいつ ぜんのう かみ てん ち み み 我らは、唯一の全能の神、天と地と、すべて見えるものと見えざるものとの創造者を信ず。／我

らは、唯一の主、神の独り子、イエス・キリストを信ず。主は、あらゆる世のさきのみ父より生まれ、神よりの神、光よりの光、造られずして生まれ、み父と同一の本質にいます真の神。万物は彼によりて造られた。主は、我ら人間のため、我らの救いのために天より降り、聖霊によって処女マリアより受肉して人となり、我らのために、ポンテオ・ピラトのもとに十字架につけられ、苦しみを受け、葬られ、聖書に従って三日目によみがえり、天に昇り、み父の右に座し、生ける者と死ねる者とを審くために、栄光をおびて再び来たりたもう。その御国は終わることがない。／我らは、生命の与え主にして、主なる聖霊を信ず。聖霊はみ父と御子とより出で、み父と御子とともに礼拝され、あがめられ、預言者を通して語りたもう。我らは、唯一の聖なる公同の使徒的教会を信ず。我らは、罪の赦しのための、唯一の洗礼を告白す。我らは、死人のよみがえりと、来たるべき世の命とを待ち望む。 アーメン。

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 東北中会を覚えて 70

今献ぐるそなえものを 主よ 清めて受けたまえ アーメン

《 子どもプログラム 担当：門脇光生兄弟・熊田なみ子姉妹 》

聖書朗読 ルカによる福音書12章35～48節 (新約聖書132頁)

説教・祈祷 「思いがけない時」 熊田雄二牧師

\* 賛美歌 27:1 なおしばしの

なおしばしの時をへなば 心安らかにわれも眠らん

主よ 汚れし身を清めて み国の備えをなさせたまえ アーメン

\* 主の祈り 祈祷書1

天にまします我らの父よ

願わくは御名をあがめさせたまえ

御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ

我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

\* 頌 栄 63 あめつちこぞりて

あめつちこぞりて かしこみ讃えよ み恵みあふるる父・御子・御霊を アーメン

\* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 古澤純一長老 (司会・受付 次週：門脇陽子長老)

本日 受付 1階：若月学・藤原宏章執事 2階：加藤良明執事 / 動画： 録音：

次週 受付 1階：大日南信也・藤井牧子執事 2階：大日南隆夫執事 / 動画： 録音：

※ 2グループ制により、長老も1階と2階に一名ずつ加わります

## I 目を覚ましていなさい

きょうの段落の小見出し「目を覚ましている僕」は、マタイ福音書の終わりの方にありますが、ルカ福音書では真ん中へんにあります。ともし火の話は、マタイ福音書では「十人のおとめ」のたとえで話されました。花婿が夜中に到着したというので、5人はあわてたが5人はあわてなかったという話です。

「ともし火」は、平たい皿に芯を立てたもので、油を壺に入れてストックしておきます。「ともし火は持っていたが、油の用意をしていなかった」というのは、「ストーブはあったが、ポリ容器に石油は入れてなかった」というようなものです。

油を持っていた5人のおとめは、油を分けてあげればいいのに冷たいなあと思います。これは信仰のたとえですので、信仰は、分けてあげられないものなのです。人それぞれ自分の心に持つものです。免罪符を買って聖人たちの信仰の徳を分けてもらうことは、聖書によれば全く無効です。

さて、「目を覚ましていなさい」と言っても、まったく眠らないでいることはできないので、「主人が真夜中に帰っても、夜明けに帰っても」だいじょうぶなようにするのはハードルが高いです。眠くて寝てしまってもだいじょうぶなようにするには、やはり「ともし火と一緒に、壺に油を入れて持って」いることです。そうすると「ともし火をともしていなさい」と言われる状態を続けることができます。寝ても覚めても、ともし続けるには燃料が要るからです。信仰の場合、持続可能なエネルギーは、聖霊が御言葉と共に働いて、信仰のエネルギーが持続するようにしてください。

ところで「十人のおとめ」の話と違うのは、ルカ福音書では、花婿の到着ではなくて、主人の到着ですが、35節「腰に帯を締め、ともし火をともしていなさい」と、「腰に帯を締め」というのが、主人を迎える準備に入っています。これは何だろうと読み進めると、37節で「・・・主人は帯を締めて、この僕たちを食事の席に着かせ、そばに来て給仕をしてくれる。」というのです。えー?! 逆でしょう。そこで、これは実際にイエス様が弟子たちになさった行為ですので、明らかに思いがけない時に帰って来る主人とはイエス様のことだと、ルカは分かるように書いています。事実、この譬えの最後40節には「人の子は思いがけない時に来る」と、メシアの称号があります。

## II 用意していなさい

ドロボウと家の主人の譬は、これもマタイ福音書にありますが、ドロボウがいつ来るか分かっていたら、警察に知らせておけばいいわけです。思いがけない時に来るから、用意がいきます。

忠実な僕と悪い僕の譬は、さらに次の段落で強調して教えられます。忠実な僕は、いつも、主人が言われた通りにしていますから、いつ主人が帰って来ても大丈夫なように、いつでも用意ができています。

悪い僕は、45節「主人の帰りは遅れる」と思っているのです、下男や女中を殴ったり、食べたり飲んだりして油断しています。そこで、予想がはずれると、思いがけない時に主人が帰って来て罰せられます。思いがけない時というのは、油断している僕の主観から出てくる時です。想定外だから、思いがけない、突然帰って来た、用意ができていない、のです。

このたとえば、ペテロが41節で「主よ、このたとえば私たちために話しておられるのですか。それとも、みんなのためですか」という質問から始まっています。そこで42節でイエス様は「主人が召し使いたちの上に立てて、時間通りに食べ物分配させることにした忠実で賢い管理人は、いったい誰であろうか」と、問い返しておられます。イエス様が弟子たちに給仕するように、弟子たちは人々に給仕する役割を言い渡されています。「俺たちは上役だから、仕えられる者であって、仕える者ではない」という高ぶりが、酔っぱらって下男や女中を殴ったりするわけです。

すなわち、再臨信仰のあり方は、今現在の信仰生活のあり方に関わってくるのです。良い終末理解は、良い生き方を導きます。悪い終末理解は、悪い生き方になるのです。主人の帰りは遅いとか早いとか、自分中心に時間軸があると、悪い終末観になります。そうすると悪い生き方になり、油断するか慌てます。

良い終末理解は、「世の終わりまでいつも、あなたがたと共にいる」と言われたイエス様中心の時間軸になっています。「神我らと共にいます」インマヌエルの主イエスと共に歩むならば、主人の帰りは遅くても早くても、いつでもよいのです。

いつでもよいように、体は眠っていても信仰が眠らないように、キリストの言葉と聖霊の働きを受け続けましょう。恵みの手段を用い続けなければ、信仰は続きません。教会の集会で聖書から神の言葉をいただき、日々聖書を読んで祈る生活で、信仰のエネルギーを補給し続けましょう。